

上之坊寺前整備の状況（次回アンケートのお願い）

また、これに併せて、今回の門前

上之坊の門前に駐車場・野外護摩壇、北面観音や灯籠を配置など当初計画された工事はほぼ終了して、参道入口の門柱や参道の石段の修正などが来年春以降に施行されるのみとなりました。

当初の計画では外れていた駐車場北の北向き観音のある区域（図B）を現在の土のままにするのか舗装するか、南の道路際の畠の整備（図D）を木を植えるかなどがその後の追加工事になるかどうか残っております。

また、門前のA B C の区画については、農地からの転用の承認を受けたため、宗教法人上之坊の所有が可能となり、住職個人の所有から上之坊への変更登記の作業が現在進行しております。十月末までには完了すると予想しております。

これを待つてお寺の駐車場等の認定をいただき、固定資産税が非課税になるよう申告を行いたいと考えております。

そして将来は A B C D のすべての区画を上之坊の境内地として認定していただき、お寺の基本財産になるようになります。

この庭儀大護摩とは、毎月本堂内陣において焚かれている護摩をお寺門前の広場に設けて、普段の何倍もの木を組み上げて松明で火をつけて皆様方の添え護摩木と一緒に焚き上げ、大願（所願）成就を祈念いたします。

真言宗では特に京都の醍醐寺を中心としての柴燈護摩が有名ですが、今年も尾道市御調町の真言宗醍醐派北之坊

僧正に大祇師をお願いし、約十名程の職衆で行います。

当日の天候にもよりますので、開催は当日朝の天候を見て判断いたします。お参りの方で火渡りを希望される方はタオルなどをご用意されることをお勧めします。なお添え護摩木は一本二百円で、五本に同じ御祈願を書かれ場合は千円となります。主な御祈願は、家内安全・健康祈願などです。

また、お札のご希望の方は、木の大札で五千円となります。十一月十七日以降、前日の二十一日までに電話にてお申し込みをお願いいたします。

上之坊の門前に駐車場・野外護摩壇、北面観音や灯籠を配置など当初計画された工事はほぼ終了して、参道入口の門柱や参道の石段の修正などが来年春以降に施行されるのみとなりました。

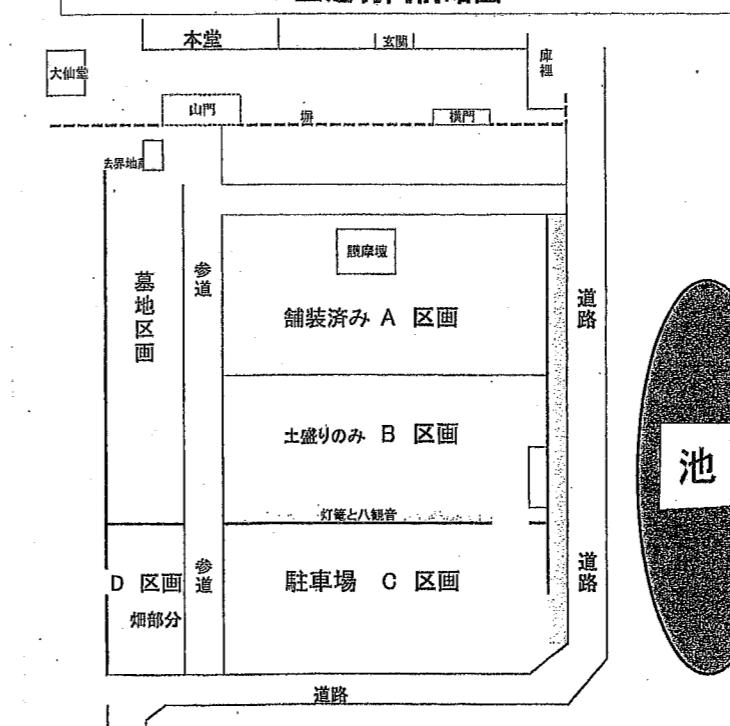
また、これに併せて、今回の門前

上之坊北側の山すその農地を購入し住職個人の所有としました。今後も以前の地権者の方には特段の事情がない限り無償でご利用いただき、将来は寺北側の庭や多宝塔への車両進入路、山の管理で利用する事にしております。

なお、来年一月に総代世話方会を開催いたしますが、この資料と記名でお願いいたします。

内容については、総代会で相談されます。B 及び D 区画をどのようにするのか、寄付の札の掲示順へ地域を分けて金額順にするのか、金額順にして地域を固めるのか、晋山式までにする寺内の莊嚴（へ疊・ふすま・ガラス戸）や本堂内陣の莊嚴（しようごん）、新住職の盛儀の衣（ころも）、その他晋山式の費用や段取り等です。次回よろしくお願ひします。

上之坊門前略図



毎年恒例の土砂加持法要を十一月八日土曜日午後一時半より開催いたします。

この法会は亡くなられたご先祖の方に対し、お供え物をして「お土砂」を加持し、光明真言を唱えて回向するもので、普通の法事に比較すれば、その功德もとても大きいとされています。

当日は午後一時半より法話、二時よりとうば供養があり、引き続き土砂加持のお勤めを四時前まで予定しております。なお、法要で「板とうば」をつくり、お墓に建てたい方はお申し込みください。供養料を含めて三千円となります。

また、お墓に塔婆を建てにくい方は紙の塔婆をつくり供養を行います。供養料は千五百円です。

加持したお土砂をご希望の方は法要終了後にお分け致しますのでお残り願います。板とうば申込みの方には無料でお分け致します。またお土砂のみご希望の方には三百円のお賽錢をご用意下さい。

板とうばや供養のお申込みは別紙にてお申込み下さい。当日参加できない場合は後日の受け取りでも結構です。

なお、明年の年忌名簿については、本堂正面に土砂加持の日より掲示をいたします。

どうぞ、先祖供養をご希望の方はお参りいただきますようご案内申し上げます。

(弘法大師のご入定の後 その八)

玄冬会(げんとうえ)を十二月七日午後一時から行います。

今回で結願となる四国の八十ヶ所巡拝は、来る十一月十一日から十三日の三日間で巡ります。

前回大雪で参拝ができなかつた六十番の横峰寺を加え、六十番三角寺から八十八番大雄寺まで讃岐の国を中心に二十五

平安時代の中期からは浄土信仰が盛んになつてきます。このころから聖(ひじり)と呼ばれる半僧半俗の修行者が現出します。特に有名なのは、高野聖(こうやひじり)で、全国を回り勧進を始めます。高野山信仰と浄土信仰を併せ、念佛を唱え、各地で布教をし、人々に遺骨を高野山に納骨するこ

とを勧めます。この高野聖からさらに分かれたのが行人(ぎょうにん)と呼ばれる人で、山岳信仰と苦行を日々の行いとしていました。

従つて、高野山の寺院では学侶と呼ばれるもともとの僧侶の人と、行人と呼ばれる修行をする人、聖と呼ばれる納骨などに関わり念仏を唱える人が共に高野山内の寺に住むようになりました。

誰が偉いとか偉くないではなく、それぞれが弘法大師の遺風を受け継ぎ、高野山の興隆に力を注いでいたようです。鎌倉時代には僧侶三百人に對して、行人と聖は二千人を超えていたようですが、このような人によつて真言と天台そして神道や阿弥陀信仰の交流は盛んになつていていたようです。

このような時代にあつて覚鑊(かくばん)という人物が高野山に現れます。彼こそが根来寺から智積院、そして、今川崎大師や成田山の系譜を作りあげた真義真言宗の中核人物です。

今回だけでもご参加されたい方があらつしやいましたら是非ご参加をお待ちいたします。

での余剩金で多少減額が出来る予想催行人数 二五名程度

月 十 年 七 和 令 上 坊 之 より だ より



上之坊だより

令和7年10月18日
第109号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168

弘法大師聖語抄

痛狂は醉ざるを笑い 酷睡は覺者を嘲る

「酔つた人は、しらふな人を笑い、夢幻(ゆめまぼろし)の世界を求めて現実を理解しない人は、眞面目な人を馬鹿にする」という意味です。

分別を忘れお酒に飲まれたり、携帯電話やパソコンでゲームを長時間する人も多くあらつしやいます。習慣性が強く、中毒の人もいるかもしません。

酔つた人が他人を笑えるのは、自分の情けない姿には、気がついていないからであるかもしません。

上之坊だより

玄冬会(げんとうえ)を十二月七日午後一時から行います。

今回は地域を散策し、ご詠歌のお唱えをして、和讃も少しだけ唱え、最後に戒律についてお話をしたいと思います。

ご希望の方がいらっしゃいましたら前日までに電話でお知らせください。会費はワンコイン五百円です。

布薩会(ふさつえ)

布薩会を今年も行います。布薩会は出家した人を中心にして、寺に集まつて今までの間違いを反省し、驕慢の心を戒める作法で、内々の儀式です。

参加ご希望の方は約一〇名と人数を限定して参拝いただきますので、お申込は十二月二十五日以降でお電話でおねがいいたします。

日時は十二月二十九日午前九時半集合で予行演習にご参加いただき、午前十時半から十二時まで行われ、その後おうどんを食べて頂き解散です。参加費は一般千円となります。